鳥取大学産学・地域連携推進たより
2014 冬号

巻頭言

「いまさらながらクローズ　＜　オープン」

鳥取大学　産学・地域連携推進機構　副機構長

近藤　克哉

新年がスタートしました。この時期は仕事とは無関係な異分野の人たちに会うことが多く、何かと刺激になります。日本の産学連携の組織整備が始まって15年近く経ちました。既報巻頭言のとおり地域社会への貢献も大学の役割として課されています。鳥取地域においては米国や日本都市部とは異なる社会構造的事情もあって、これら成功モデルをそのまま当てはめても必ずしもうまくいくとは限りません。地域ごとの解決すべき課題もあります。具体的なところは他書（特技懇誌No.261, 2011年5月など）を参照してもらうことにして、最低限必要な要素は、(a)WIN-WINの契約・関係を築けるか、(b)知財や支援制度をうまく活用できるか、(c)双方にオープンであるか、などでしょうか。3次元プリンタや大規模回路設計などに代表される技術によって、これまでに比べ容易に形にできるようになりました。加えてコトづくりも盛んになってきています。中小企業にはとくにメリットが大きいように感じます。大学では他にはない最先端技術が創出されます。これまでは、（実業界で儲かるとされる技術・使われる技術）≠（研究者が価値あると考える技術）とされ、また最先端技術を活かしきれない構造的課題もありましたが、これらの状況は産業界側の力もあって改善されてきています。このような期にあってイノベーション創出には互いの情報を共有し、“双方に”オープン（協調・共生）であることが重要です。産業界・地域と大学のインターフェイスのため、機構は専門性の高い教職員を有し広く地域社会に開かれています。また最先端技術の講演会もたびたび開催されています。学術分野に限らず多様な人との融合・交流には、いろいろとヒントが詰まっています。この鳥取大学産学・地域連携推進たよりにも多くのヒントが含まれていればと思います。読者の皆様におかれましては、関心の高い情報など御意見や御感想をお聞かせ願えれば幸いです。

私たちは、地域社会から期待される存在となります。
私たちは、「利益相反」を克服した産官学連携を推進します。
私たちは、知的付加価値を高めるための自己研鑽に努めます。
私たちは、連携の実を上げるべく、学外者に対し敬意を持って接します。
私たちは、専門領域の異なる人材の幅広い協調を計ります。
私たちは、産官学各界が互いに情報を共有するよう努めます。

①研究推進に関する事業報告

1.大学発新産業創出拠点プロジェクト（START）に２件採択

文部科学省は、大学発新産業創出拠点プロジェクト（START）（プロジェクト支援型）における平成25年度の新規採択実施機関（第3サイクル審査分）を決定し、そのうち本学では下記の2件のプロジェクトが採択されました。平成25年度のSTART（プロジェクト支援型）の審査は3回のサイクルに分けて行われ、今回は第3サイクル審査分の採択になり、今年度のプロジェクト申請件数は145件、プロジェクト採択件数は16件でした。平成25年度における本学の2件の採択は東京大学と並び最も多い件数であり、平成24年度から開始されたSTART（プロジェクト支援型）において中国・四国地方の大学では初めての採択となりました。

	プロジェクトの名称	研究代表者	事業プロモーター
1	再生医療技術の基盤研究を応用した内在性幹細胞制御による肝疾患の革新的治療戦略	医学系研究科 教授　汐田　剛史	野村ホールディングス株式会社
2	カニ殻を用いたキチンナノファイバーの製造技術、およびその展開	工学研究科 准教授　伊福　伸介	株式会社ファストトラックイニシアティブ

2.鳥取大学東京ビジネス交流会

【11 月 22 日（金）　開催：キャンパス・イノベーション・センター（CIC）東京】

今回の東京ビジネス交流会は、科学技術振興機構(JST)の研究成果展開事業A-STEP【探索タイプ】に採択された研究シーズのうちから、研究者と企業の共同申請による【顕在化タイプ】へ展開を希望する研究者５名がシーズ発表を行いました。発表者とシーズ題目は、會見忠則教授（農学部）「毒きのこの利活用のための新イノベーション推進事業の展開」、東政明教授（連合農学研究科）「シロアリの水分利用機能を破綻させることによるシロアリ生息制御技術の開発」、山崎良平教授（農学部）「病原性細菌の感染診断ツールと感染予防のための糖鎖ワクチン開発」、渡辺文雄教授（農学部）「少子高齢化時代に向けた疾病予防のための高機能野菜の開発」、栗政明弘准教授（医学系研究科）「DNA損傷と細胞周期検出バイオセンサーによる抗がん剤評価システム」です。その他に、生命機能研究支援センターに今年度設置された設備サポート分野の紹介を本庄和志統括マネージャー、本学の連携機関である鳥取県産業技術センターの紹介を茂一孝企画員が行いました。企業等の参加者は16名（関係者を含め全37名）と少数でしたが、このビジネスマッチングを契機として、既に1件が共同研究に向けた交渉を行っています。

3.鳥取大学大阪ビジネス交流会　【12 月 4 日（水）　開催：鳥取県関西本部交流室】

今回は、東京ビジネス交流会と同様にA-STEPで研究支援を受けている研究シーズの中で、実用化の可能性が高いものを選定して発表していただきました。ここでは、原豊准教授（工学研究科）が「新発想のフォルムを持ったアルミ押出『円形翼バタフライ風車』」、櫛田大輔助教（工学研究科）が「筋活動電位に基づく筋疲労予測とリハビリテーションへの応用」、櫻井敏彦准教授（工学研究科）が「再生医療・細胞工学分野で活用できる3次元培養基材の開発」、井上敏昭准教授（染色体工学研究センター）が「M期の制御に着目する非遺伝毒性発がん物質の検出」と江草真由美プロジェクト研究員（産学・地域連携推進機構）が「新規素材キチンナノファイバーによる作物病害防除資材の開発」の発表を行いました。企業の参加者は約30名で、同時に実施した個別相談会では延べ14件の相談が行われました。

4.産学連携学会関西･中四国支部第５回研究･事例発表会

【12 月 6 日（金）　開催：海峡メッセ下関 国際貿易ビル】

この発表会には、34名の産学連携学会員が参加し、本機構から3名が参加し、3件の発表を行いました。発表者と発表題目は、山岸大輔助教（知的財産管理運用部門）「鳥取大学における発明者の出願動向と課題に対する取組み」、田中俊行教授（研究推進部門）「研究体験型高大連携事業の紹介～雲雀丘学園サイエンス・キャンプin鳥取大学～」、加藤優産官学コーディネーター「鳥取県内のシーズ発表会『山陰発技術シーズ発表会inとっとり』」です。本機構の発表件数は、主催機関の山口大学と同じく最

多でした。情報交換会にも参加し、他機関の産学連携に携わる人と意見交換を行いました。

5.鳥取銀行による鳥大技術シーズ紹介冊子（vol.2）の発行

これまで様々な連携を図っている鳥取銀行から銀行顧客向けの鳥大技術シーズ紹介が発行されました。このシーズ紹介冊子では銀行員によるインタビューや共同研究先のコメントなども記載して分かりやすく作られています。第1回目の石井晃教授（工学研究科）に続き、第2回目は工学研究科の竹森史暁准教授の「ロボット工学技術の介護分野への応用」の技術シーズが掲載されていますので、是非ご覧下さい。

②地域貢献・生涯学習に関する事業報告

1. 第１回日南町森林活用プロジェクト会議

【10 月 2 日（水） 開催：本学産学・地域連携推進機構 研修室】

日南町の森林資源の有効活用と林業振興・地域雇用の創出を目指すため、日南町職員のほか本学から学識経験者として法橋誠理事及び4名の教員が加わり、日南町森林活用プロジェクトチームを立ち上げました。第1回目の会議では、プロジェクト代表に地域学部永松大教授が選任され、今後のスケジュールや向かうべき方向性などの確認が行われました。

2. 中部総合事務所と鳥取大学との意見交換会 【10 月 2 日（水）開催：本学広報センター】

県中部地区の活性化方策についての意見・情報交換を行うとともに、地域貢献分野における一層の連携強化のため、今年度で第6回目となる鳥取県中部総合事務所と本学との意見交換会を開催しました。中部総合事務所からは、農林業廃棄物を活用した新産業の創造、東郷池の水質浄化、中山間地振興等について協力依頼があり、本学からは、中部地区オフィスの活用、中部管内における産学官連携、大学ＣＯＣ事業等について提案を行いました。

3. 鳥取県県土整備部と鳥取大学との意見交換会

【10 月 10 日（木）開催：本学共通教育棟 第１会議室】

鳥取県県土整備部と本学との意見交換会を、本学共通教育棟にて開催しました。同部とは、昨年より大学院工学研究科が意見交換会を行っていますが、この度は工学研究科のほか地域学部や農学部の教員なども参加し、全学として意見交換会を実施しました。

県土整備部からは、国土強靱化基本法案及び同政策大綱、異常気象に対応した治水・土砂災害対策、持続可能な中山間地域対策等について要望、提案があり、本学教員との活発な意見交換が行われました。

4. 風紋祭での模擬店への食材提供（琴浦町、大山町、鳥取県水産試験場）

【10 月 12 日（土）～14 日（月） 開催：本学鳥取キャンパス】

本学学生に本学と連携している四町（日南町、琴浦町、南部町、大山町）へ興味を持ってもらう機会を作るため、風紋祭でＰＲを実施しました。昨年度に続き料理サークルの学生が出展する模擬店2団体に町の食材等を提供するとともに、各町のＰＲをしていただきました。出展した学生からは、「昨年度より売り上げがよく、早く売り切れた。」という報告や、「各町を知る良い機会になった。」等の感想が聞かれました。

また、鳥取県水産試験場からは学生に県産魚の良さをもっとよく知ってもらいたいとハタハタの一夜干しが提供され、上記団体にＰＲと販売をしていただきました。ハタハタの焼く匂いに誘われて多くの学生が購入し、こちらも好評の内に完売となりました。

5. 鳥取大学振興協力会県外視察（広島方面）　【10 月 15 日（火）～16 日（水）　広島県】

鳥取大学振興協力会では、大学と地元産業界との交流と産学連携を推進し、県内産業の振興を図ることを目的とした県外視察を平成16年から毎年実施しています。今年度は広島市、及び東広島市を野津会長以下29名が訪問しました。

初日はマツダ(株)を訪れ、マツダミュージアムを見学後、同社の最新技術であるスカイアクティブテクノロジーについて担当者から説明を受けました。2日目は広島大学を訪問し、「広島大学研究協力会」の活動や広島大学の地域連携等について説明していただきました。その後、広島中央サイエンスパーク内の中国電力(株)エネルギア総合研究所と(独)酒類総合研究所を見学しました。参加者からは「大変有意義な研修だった。」などの感想が聞かれました。

6. 第３回とっとり防災・危機管理研究会

【10 月 22 日（火）　開催：本学工学部附属地域安全工学センター、及び鳥取県庁】

今年度第3回目の研究会を、会員26名の出席で開催しました。
今回の研究紹介・活動報告は「河川災害について」と題して本学大学院工学研究科の檜谷治教授に報告していただきました。また新入会員として全国労働者共済生活協同組合連合会鳥取県本部の木岡繁男専務執行役員の紹介がありました。

今回の研究会では報告事項11項目、協議事項3項目があり活発な意見交換が行われました。その中でも「新航空消火システム開発計画」については会員の関心も高く、研究会として協力していくことが確認されました。また、大学ＣＯＣ事業にも研究会として事業を提出すべきとの意見もありました。

7. 鳥取県未来づくり推進局と鳥取大学との意見交換会

【10 月 29 日（火）　開催：本学 共通教育棟第１会議室】

鳥取県未来づくり推進局と本学との意見交換会を、本学共通教育棟にて開催しました。同局との意見交換会は今年度が初めての開催であり、主に鳥取県の来年度事業に係るテーマ・方向性について意見交換を行いました。

本学からは各学部（地域学部、工学研究科、農学部）の教員が出席し、政策分野ごとに様々な意見、提案等を行いました。これらの意見等は、今後県庁内で政策への反映等について検討が進められることになります。

8. 鳥取大学・鳥取銀行連携セミナー　【10 月 30 日（水）　開催：本学広報センター】

本学と鳥取銀行が平成16年に締結した「連携協力に関する協定」に基づき、県内企業のビジネスマッチングの促進及び県内産業の活性化を目的として、「鳥取大学・鳥取銀行連携セミナー」を開催しました。

4回目となった今回は、「産学連携・医工連携による地域産業の活性化」をテーマに、本学からは、「鳥取大学における産学連携推進の取組み」及び「医療・福祉分野におけるＩＣＴの活用」と題して、産学・地域連携推進機構 清水克彦副部門長及び工学研究科 櫛田大輔助教からそれぞれ講演を行いました。

当日は、地元企業・行政機関の関係者等、51名の方にご参加いただき、セミナー修了後は産学官金連携交流会が開催され、活発な意見交換が行われました。

9. 鳥取県地域振興部と鳥取大学との意見交換会

【10 月 31 日（木）　開催：本学共通教育棟第１会議室】

鳥取県地域振興部と本学との意見交換会を、共通教育棟にて開催しました。

県からは多田治樹地域振興部長を始め幹部職員12名が参加し、本学からは田中久隆理事、細井由彦理事、法橋誠理事、中島廣光理事など16名が参加しました。

地域振興部からは、鳥取県環境学術研究等振興事業や中山間地域振興・移住定住の促進について事業説明や報告等がありました。一方本学からは、大学ＣＯＣ事業や、今後のものづくり道場の新たな事業展開（ＦａｂＬａｂとっとり）等について連携、協力を求めました。

10. 日南町インターンシップ報告会

【11 月 11 日（金）　開催：日南町役場】

9月9日（月）から13日（金）の5日間、工学研究科の学生3名が日南町を訪れインターンシップを行いました。学生たちは日南町での経験をもとに報告書を作成し、インターンシップの感想を報告するとともに町の事業や行政施策についての提案も行いました。町からは町長、副町長を始め20名の職員が参加し、学生からの報告を聞いた後、活発な意見交換が行われました。

11. 四町連携企画「鳥取大学連携シンポジウム in 琴浦」

【11 月 12 日（火）　開催：琴浦町まなびタウンとうはく】

本学と連携する県内四町が「鳥取大学連携シンポジウムin琴浦」を開催しました。四町長のパネルディスカッションを通して、本大学の研究や人材を生かした地域活性化策の在り方について討論しました。また、パネル討論に先立ち豊島学長が「鳥取大学の地域貢献」をテーマに講演を行い、170名の参加者は熱心に聞き入りました。

12. 鳥取大学サイエンス・アカデミー in Yonago ／大山・日野川・中海学協会セミナー

【10 月 5 日（土）、26 日（土）、11 月 9 日（土）、16 日（土）　開催：鳥取県西部総合事務所講堂ほか】

本学では、大学の教員が行っている研究や、今日話題となっている事柄などを住民の皆さまにご紹介する講演会を実施しています。毎年度、10 月・11 月は「サイエンス・アカデミー in Yonago」と題して本学の研究者と西部在住の専門家の方が共同で講師を担当し、大山・日野川・中海圏域にある地域の誇る資源について紹介することで、次の世代を担う人材の育成や、地域資源の掘り起こしによる広域での観光振興やイメージアップを図ることを目的としています。今年度は、鳥取県西部総合事務所と本学医学部の2会場にて計4回開催し、延べ248名の方にご参加いただきました。11月16日（土）の最終日には、4回全てに参加された受講生に修了証が授与されました。

13. とっとりグランマ倶楽部第３回実行委員会

【11 月 19 日（火）　開催：本学広報センター】

鳥取県、明治大学、本学の連携講座である「とっとりグランマ倶楽部」の第3回実行委員会を、本学広報センターをメイン会場として、明治大学駿河台キャンパスとテレビ会議システムで繋ぎ実施しました。はじめに、今期の修了生による中間活動報告が行われ、各委員から活動に対する様々なご意見、アドバイスをいただきました。その後、来年度の実施要領（テーマ募集方法）や今後の全体スケジュールについて意見交換が行われました。最後に、次回実行委員会を翌年2月に開催し、平成26年度の事業テーマを決定することを申し合わせ閉会しました。

14. 日本海水産資源研究会先進地視察　【11 月 20 日（水）～21 日（木）　愛媛県愛南町】

本学日本海水産資源研究会増田紳哉コーディネーター（本機構米子地区地域連携部門）、清水克彦准教授（地域貢献・生涯学習部門）は、地域貢献支援事業「産官学連携による地域における新たな水産業の創出を支援する取組み」の一環とし

て（一社）境港水産振興協会足立明彦専務理事、鳥取県境港水産事務所細本誠課長補佐、鳥取県水産試験場山田英明室長とともに愛媛大学社会連携推進機構南予水産研究センターを視察しました．愛媛大学本部（松山市）で山内皓平センター長から説明を受けた後、鶴見武道特任教授の案内で現地に移動しました。愛南町副町長はじめ町役場関係者やセンター教職員からセンターの設立経緯や業務内容について詳細な説明を伺い、旧町役場や旧小学校を活用して設立された施設を視察しました。水産学部のない愛媛大学が産学官連携により地域の主幹産業である水産業に貢献する様子は本学にも大変参考となる事例でした。

15. とっとり防災・危機管理研究会　視察研修（熊本方面）

【11 月 20 日（水）～21 日（木）　熊本県】

平成24年7月に発生した九州北部豪雨の災害復旧現場視察と熊本大学減災型社会システム実践研究教育センター（IRESC）の訪問を実施しました。

はじめに熊本大学を訪問し、同センターの教員と懇談を行いました。センター内の教員配置や設立理念等の説明を受けたほか、とっとり防災・危機管理研究会からも松原雄平会長が研究会の紹介を行いました。同センターと本学工学部附属地域安全工学センター（とっとり防災・危機管理研究会）の今後益々の連携も確認しました。その後、星出和裕客員准教授の案内で災害復旧現場視察を行いました。現在、16箇所の緊急砂防事業を実施されており、急ピッチで工事が実施されているとのことでした。また、全ての工事現場に監視カメラを設置し二次災害を防止しているとのことでした。

今回の視察概要は次回の研究会で報告し、今後の活動に役立てる予定です。

16. 豐島学長の明治大学訪問　【11 月 29 日（金）　開催：明治大学駿河台キャンパス】

平成21年に明治大学、鳥取県、本学が締結した三者連携協定について、各機関とも今後5年間の期間延長について合意していることから、この節目の時期を捉え本学の豐島良太学長、法橋誠理事、及び鳥取県大場尚志東京本部長らが明治大学の福宮賢一学長を訪問しました。

席上では今後の連携の方向性について意見交換が行われ、「とっとりグランマ倶楽部」や「創立者出身地への学生派遣プロジェクト」などを始め、今後更なる連携協力を目指し取り組んでいくことを確認しました。

17. 第２回鳥取大学・日南町ワーキンググループ会議

【12 月 5 日（木）　開催：医学部学務・研究課 第２会議室、及び広報センター】

平成25年度第2回目となる鳥取大学・日南町ワーキンググループ会議が行われました。はじめに今年度の連携事業の進捗状況報告が行われた後、来年度に向けての日南町からの提案や協力依頼も行われました。　また、今年度から新たにスタートした日南町と連携するＣＯＣ事業の概要説明（2件）が行われ、本学と町の更なる連携を確認し合いました。連携事業報告会は平成26年3月9日（日）に日南町で開催される予定です。

18. 第２回日南町森林活用プロジェクト会議

【12 月 5 日（木）　開催：医学部学務・研究課 第２会議室、及び広報センター】

10月2日に設立された日南町森林活用プロジェクトの第2回会議が行われました。会議では、前回行われた第1回会議で課題とされたＦＳＣ森林認証やＪ－ＶＥＲなどについての広報戦略、日南町産材の価値や流通経路の確認、具体的な付加価値商品の開発などについて協議・検討が行われました。また、ＣＯＣ事業「森林を活用した山村地域振興」についての説明も行われ、本プロジェクト会議との連携について確認を行いました。

19. 鳥取大学振興協力会中部地区懇談会及び交流会

【12 月 10 日（火）　開催：ホテルセントパレス倉吉】

鳥取大学振興協力会中部地区懇談会及び交流会が、ホテルセントパレス倉吉で開催されました。懇談会では、振興協力会や鳥取大学の活動報告の後、意見交換会を実施しました。意見交換では、中部地区オフィスの活用や教員との共同研究について話題提供がありました。続いて交流会では、「鳥取大学研究用設備の学外利用」について生命機能研究支援センターの本庄統括マネージャーからＰＲがあり、その後、シーズ発表を工学研究科の竹森史暁准教授（「可変ホイルベース機構を用いた階段昇降可能な電動車椅子の開発」）、及び農学部附属フィールドサイエンスセンターの近藤謙介講師（「施設園芸学研究室の取り組みとフィールドサイエンスセンターのご紹介」）に行っていただきました。質問も多数あり、活発な議論が行われました。講演会終了後は懇親会を実施し、会員相互の交流や情報交換を行いました。

20. 産学官連携により地域の水産資源を活用する方策を先行事例に学ぶ「地域の水資源活用セミナー」

【12 月 20 日（金）：開催：境港商工会議所大ホール】

本セミナーは、鳥取大学日本海水産資源研究会と地域貢献支援事業「産官学連携による地域における新たな水産業の創出を支援する取組み」の主催、境港市と境港市産地協議会の共催により約50名が参加して実施されました。本学法橋誠理事、境港市中村勝治市長の挨拶に続き、日本海水産資源研究会からの報告として、本機構米子地区地域連携部門増田紳哉コーディネーターがメキシコ西北生物学研究所視察について、地域貢献・生涯学習部門清水克彦准教授が愛媛大学社会連携推進機構南予水産研究センター視察についてそれぞれ報告を行った後、鹿児島大学水産学部木村郁夫教授から「水産物の高価値流通を実現する技術革新：近未来の活気ある水産業への取組み」と題してご講演いただきました。講師の熱心なご講演と活発な議論により会場は熱気に包まれました。

21. 平成２４年度研究成果報告会　【12 月 25 日（水）　開催：とりぎん文化会館】

平成２４年度に採択された鳥取大学地域貢献支援事業と、鳥取県環境学術研究等振興事業の研究成果報告会がとりぎん文化会館で開催されました。報告会では、豐島良太学長、林昭男鳥取県副知事の挨拶に続いて、「倉吉市打吹玉川伝統的建造物群保存地区における防災マップ作り」など５件の口頭発表が行われました。大学関係者や県関係者をはじめ、自治体関係者や一般市民約70名が発表に聞き入っていました。

22. ものづくり道場について（１０月～１２月）

ものづくり道場では、地域の子どもたちにものづくりを教える指導者養成講座を県内3箇所で年2回開催しており、11月からは東部、中部、西部地区の第2回目を実施し、それぞれ30名、16名、19名が受講しました。今後は実際の子どもに教える実施演習を経て、晴れて修了生となります。

今回は指導者養成講座の修了生における地域での活躍についてご紹介します。東部地区では、全国都市緑化とっとりフェアが11月10日まで湖山池公園を主会場に開催され、木工等7つのものづくり体験コーナーを開き、来場した小学生等にものづくりの指導を行いました。中部地区では10月20日に、伯耆しあわせの郷まつりで手づくりのミニＳＬを走らせるなど4ブースを、西部地区では同日開催された米子市子ども大会では発射機で飛ばすブーメランなど2ブースを開き、大盛況に終わりました。その他、中部ものづくりまつり（10月5～27日）、境港市読書活動推進大会（12月1日）、ことうら子どもパーク（計10回）でも、ものづくりブースを出展し、修了生等が大活躍しました。

③知的財産管理運用に関する事業

1.バイオジャパン２０１３に出展　【9 月 9 日（水）～11 日（金）　開催：パシフィコ横浜】

バイオビジネスにおけるアジア最大のパートナリングイベントであるバイオジャパン２０１３がパシフィコ横浜で開催されました。本学からは、「癌の正常細胞化を誘導する活性分子の生体応用」と題して医学部三浦典正准教授によるプレゼン発表およびブース展示を行いました。会期中130名を超える来場者がブースに訪れ、当該技術の内容を説明致しました。数社とは、今後の共同研究の検討や共同でのプロジェクト申請など、具体的なマッチングに発展いたしました。

2.キャンパス・イノベーション・センター東京 新技術説明会

【11 月 7 日(木)　開催：CIC 東京】

（南条教授）　（森本准教授）

本学東京オフィスが入所するＣＩＣ東京において、同様に当センターにオフィスを有する大学と共同で、新技術説明会を開催致しました。本学からは、特許出願シーズに基づく2テーマ、「六配位ケイ素陰イオンを用いたイオン液体電解質の開発」と題して工学研究科南条真佐人教授、また「キチン誘導体を用いた生体接着剤・シーリング材の開発」と題して生命機能研究支援センター森本稔准教授による口頭発表及びポスター展示を行いました。53人の聴講者があり、発表後には個別相談会が実施され、当該技術に興味を示した企業とのマッチングを図りました。

3.第 55 回鳥取県発明くふう展受賞　【11 月 24 日（日）　開催：さざんか会館】

一般社団法人鳥取県発明協会が主催する「第５５回鳥取県発明くふう展」において、本学学生から出品された4件の作品が受賞し、11月24日（日）に「さざんか会館」にて表彰式が行われました。「ランナー式コード結束具」は、今年実施した「知的財産インターンシップ」実習にて、考案したアイデアを、「ものづくり教育実践センター」の協力を得て、３Dプリンターを使って試作し、応募したものです。

4.中国地域産学官連携コンソーシアム第２回コーディネーター連絡会議

【12 月 5 日（木）　開催：岡山コンベンションセンター　301 会議室】

昨年度に引き続き2回目となるコーディネーター連絡会議を開催しました。本会議には、広島大学、山口大学、岡山大学、岡山県立大学、津山高専および本学からコーディネーターが出席致しました。平成25年度さんさんコンソ事業の中間報告等を行った後、各コーディネーターを交えた意見交換を行いました。各コーディネーターからは、各校における知財教育への取り組みや、シーズ発表への取り組みなどの報告がありました。また、さんさんコンソによる合同での新技術説明会への出展などが、自校の産学連携活動にとっても有効であり、引き続きさんさんコンソの活動に協力し、積極的に活用していきたいとの意見がありました。

5.第 34 回産から学へのプレゼンテーション in 岡山

【12 月 5 日（木）　開催：岡山コンベンションセンター】

ＪＳＴが大学等のシーズと企業ニーズとのマッチング機会の創出のために実施している事業「産から学へのプレゼンテーション（通称：産プレ）」の中国地域版を、ＪＳＴ及び中国経済産業局の協力を得て、開催しました。当日は、５社の企業から技術課題のプレゼンが行われ、聴講には中国地域以外の機関からも多くの参加がありました。また、名刺交換後の個別相談では、企業と研究者・コーディネーターが、お互いの課題や研究について直接紹介を行いました。今後のマッチング活動や共同研究などへの進展のきっかけになることが期待されます。

発行日：平成 26 年 1 月 1 日＜第 35 号＞
所在地：〒680-8550 鳥取市湖山町南 4-101
TEL：0857-31-5609　Fax：0857-31-5571
連絡先：鳥取大学産学・地域連携推進機構
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.cjrd.tottori-u.ac.jp/
E-mail：ken-somu@adm.tottori-u.ac.jp